



起業活動を通じて農村女性が 地域活性化に果たす役割

リポーター 石垣 一子さん(中山)

最近の農業・農村では担い手不足や高齢化によって少し元気がなくなってきたように思います。そんな中、私たち女性農業者にも地域の活性化に果たす役割への期待が高まってきております。

農業に従事する女性は農業就業人口の六〇%を超え、農業生産をはじめ農業経営や地域社会の担い手としても極めて重要な部分を担っております。しかし、その役割に対する評価はまだまだ低いのが現状です。女性も自分の持っている力を高めながら、さらに社会参加していく機会を増やしていくのも大切ではないかと思えます。このような状況から女性も自分が持っている経験や技術、そして能力を発揮して、お互いが輝きながら多様で生き生きとした生き方ができるようにすることは、地域の活性化にとっても、また農業の担い手育成を図るうえでも大切な課題だと思えます。

■加工や直売活動の取り組み
農家の女性を中心になって農産

物などの地域資源を活用して加工販売活動を行なっている事例がありますので紹介します。私は「みどりの市場」に参加しています。平成六年度にJA女性部が市民の皆さんに私たちの作った新鮮な野菜や加工品を求めやすい値段で提供するために開催されたものです。それと併せ、会員の親睦を図りつつ技術交流を深め、それが農家の収入になればという願いもこめられています。

我が家は果樹農家で、果樹、枝豆、餅菓子類をメインに出荷していますが、消費者の要望にこたえながら楽しく交流活動ができて充実しています。餅は平成七年度に菓子製造業の許可を得ましたので、「ごま餅」、「おやき」を自慢にしています。

■少しづつ社会へ視野を広げて
さて、直売活動に取り組んでいる私たちの仲間の意見を聞いてみると、「初めて自分名義の口座を持つことができてうれしい、頑張らなければと思った」、「いろいろ

な人との交流をしながらの対面販売なので、これをきっかけに新しい出会いと交流がありうれしい」、「仲間との技術交流ができた」、などというものがありました。

このような新しい取り組みは交流の輪を広げながら、少しづつ社会へ参加し、視野を広げる機会にもなっています。どうぞこれからよろしくお願いいたします。

最後に農産物の直売所について、生活普及センターの生活指導員である佐藤さんにお聞きしました。

Q、大館市雪沢地域には常設の直売所がオープンすると聞いています。どのような事業で設置されるのでしょうか。

A、市農林課が窓口になり、この



佐藤生活指導員から話を聞く石垣リポーター(右)

事業は山村振興等農林漁業特別対策事業という名で進められています。農林水産物直売所として雪沢地区振興会が中心となり取り組んでいます。先日の研修会には各集落の代表者をはじめ、たくさんの方が参加し、今後の運営や販売のための生産活動について意見交換がされました。他にさきがけて取り組んでいる管内の直売活動を参考にしながら、行政側でも地域活性化を目標に大きな期待をして支援しております。でも、やはり農家女性の頑張りや地域の力になると思っています。

Q、将来は私たちにもそのような常設の直売所があれば、と考えています。農家の女性たちの仲間でも行政から支援いただくことができないのでしょうか。

A、石垣さんたちが加工所を設置するときには、農業改良資金(生活改善資金)を利用しましたが、その際にも、女性グループに対し貸し付けが行われました。同じように中山間地域の立地条件を考え合わせ、やる気がある農家の皆さんと仲間づくりをしていくと該当する事業があります。先進事例もありますから、どうか前向きに頑張ってください。